

救急車の適正利用にご協力ください

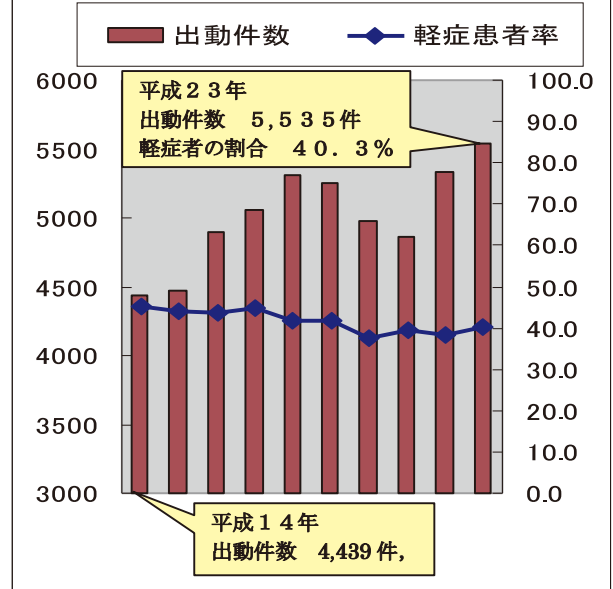
救急車は、けがや病気などから皆さんの生命を守るため、限られた台数を最大限に活用し、昼夜を問わず 出動しています。

しかし…

平成 23年に搬送された傷病者のうち、軽症者が全体の約4割を占めています。このまま増加し続ければ、緊急性があり本当に救急車を必要とする人への適正な救命処置等が遅れ、救える命が救えなくなる恐れがあります。

119番に救急要請する前に、本当に救急車が必要か、自家用車やタクシーなどの他の交通機関を利用できないか、一度考えてみましょう。

救急車の出動件数は年々増えています。
(平成13年から10年間で約1.2倍増加)



(大竹市・廿日市市の合計)

本当に救急車が必要ですか!?



救急要請の中には、「どこの病院に行けばよいかわからない」、「便利だから」、「早く診てもらえるから」と救急車を呼ぶ人がいます。

ただし、**緊急性があり、本当に救急車が必要な時は、迷わずに救急車を呼んでください。**

救急車を上手に使いましょう

消防庁では、救急車を呼ぶべきかどうか判断に困った場合などの参考となるよう、『救急車を上手に使いましょう～救急車の必要なのはどんなとき?』を作成しています。

この中には、「救急通報のポイント」、「ためらわずに救急車を呼んで欲しい症状」、「救急車の呼び方」などを紹介しています。

詳しくは、消防庁のホームページをご覧ください。

(消防庁 <http://www.fdma.go.jp/>)

救急車を上手に使いましょう

～救急車 必要なのはどんなとき?～



〈発信のわらい〉

近年、救急車の出動件数・搬送人員数はともに増えており、救急車の稼働までの待機時間も長くなってきています。

また、救急車で搬送された人の半数が入院を必要としない軽症という現状もあります。

そこで、この冊子、書籍に上手に救急車を利用していただくため、『救急車を上手に使いましょう～救急車 必要なのはどんなとき?～』を作成しました。

この冊子には、

救急車を呼んだらお願いしておくべきものなど「救急通報のポイント」、

重大な病状やけがの可能性がある「ためらわず救急車を呼んでほしい症状」、

実際に救急車を呼ぶ場合の「救急車の呼び方」などを載せていますので、

救急車を呼ぶべきかどうか判断に困った場合などに、活用していただければ幸いです。

救急車や救急医療は限りある資源です。みんなで上手に利用し、救急医療を安心して利用できる社会を目指していただきたいです。

消防庁 <http://www.fdma.go.jp/>
(ホームページをご参照ください)